

国語

第6学年

育成を目指す資質・能力

【実践的思考力】

単元名

筆者の考えに対する自分の考えを述べよう「時計の時間と心の時間」

【単元の概要】

本学習材において筆者は、『心の時間』を頭に入れて、『時計の時間』を道具として使うという、『時間』と付き合う「え」が必要だと主張しています。この主張に説得力をもたせるための、題名、事例の挙げ方、双括型の構成、かぎの使い分け等の書きぶりの工夫に着目しながら、読みの課題を解決し、読み方を創造していきます。

学習指導要領における領域・内容

C読むこと ウ

他教科等との関連

理科、特別活動

◆単元の目標

教材文から様々な読みの課題を設定し、その解決を目的に、事実と感想、意見などとの関係を捉えながら文章の内容を的確に読み取り、筆者の考えと比べながら自分の考えを明確にもつことができる。文や文章には色々な構成があることについて理解する。

◆単元の展開（全7時間）

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
情報の分析、課題の設定、情報の収集（1）		
日常生活と題名「笑うから楽しい」とのズレから、読みの課題を設定する。	<p>○ふだんは楽しいことがあるから笑うよね。この題名は、僕たちと反対のことを言っているよ。どうしてかな。</p> <p>○本文を読んでみようよ。そしたら納得できるかもね。</p> <p>自分の中にある概念とのズレから読みの課題を発見しながら読み進めている。</p>	<p>■「時計の時間と心の時間」を読む前に「笑うから楽しい」の説明文を扱うことを通して、読み方を学ぶ場を設ける。</p> <p>■課題設定のために、日常生活と題名とのズレから疑問を引き出す。</p> <p>■疑問を生じさせることで課題意識をもちやすくし、国語科のねらいに迫る課題発見へつなぐ。</p>
題名が「楽しいから笑う」ではないのは、なぜだろう。		
音読をし、筆者の考えに対する納得度をパーセンテージで表し、交流する。	<p>○納得度は60%。体の動きが心の動きに働きかけるって本当かな。</p> <p>○納得度は90%。友達と笑っている時に、何でもないことまで楽しく感じたことがあるから、筆者の言っていることが何となく分かるなあ。</p> <p>筆者の考えを知り、それに対する自分の考えを、経験と重ねて疑問をもちながら表現している。</p>	<p>■自分の考えの変容を自覚できるよう、最初の読みの段階で納得度をパーセンテージに表しておく。</p>
筆者が書いた文章の中で、一番大切な段落はどれか考え、選択し、主張を踏まえて、題名に込めた筆者の意図を探る。	<p>○筆者が一番言いたいことは何だろう。</p> <p>○これまでも大事な段落を探して筆者の考えを読みとってきたよね。</p> <p>○大事な段落を探してみようよ。</p> <p>○④段落。筆者がこの説明文で伝えたいことがまとめているから。</p> <p>○①段落。「体の動きと心の動きは密接に関係している」とはっきり言い切っているから。</p> <p>○「心の動きが体の動きに表れるのと同様に、心の動きも心の動きに働きかける」ということを意識して欲しいからこそ、題名にしかけをつくったのだと思う。</p>	<p>■主張、双括型の説明文であること、段落の役割を児童がつかんでいるか児童の発言により確認する。</p> <p>■これまでの「見立てる」や「生き物は円柱形」の学習を基に、筆者の主張が書いてある段落を探せよよいことに気付かせる。</p> <p>■主張と関連させ、題名に仕掛けをした筆者の意図についての考えを引き出す。</p>

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
整理・分析、まとめ（１）		
<p>事例の書きぶりから、筆者の説明の仕方の工夫に迫る。</p>	<p>○②段落は楽しい気持ちを引き起こす実験で、やってみると確かに納得できるね。 ○③段落は脳内の血液温度の変化について書いてあって、実感しにくいけど、頭をアイスノンで冷やすと気持ちよくなることと似ているのかな。</p>	<p>■事例の書きぶりに着目して、事例の役割や効果を確かめる。</p>
<p>納得度の変化とその理由を書き、交流する。</p>	<p>事例の書きぶりから、読者が納得しやすいように、実感しやすい事例と科学的根拠のある事例を挙げていることに気付き、双括型の説明文であることとも合わせて工夫について捉えている。</p>	<p>■納得度がどのように変容したか説明することを通して、思考がどのように変わったかを言語化させる。</p>
	<p>○納得度が120%上がった。筆者が最後に読者に語りかけている一文の意味が、事例と主張を結び付けて考えていくことでよく分かったから。このように、何を事例に挙げるかで、説得力のある説明ができるようになった。 ○事例の挙げ方で納得度が上がった。事例と主張のつながりが見えると説得力がある。 ○題名や事例に着目すると筆者の主張が見えてくるし、説得力も感じるようになった。次の学習に生かすことができるね。</p>	
	<p>学習材の内容だけでなく、他の学習材を読むときに生かせる視点や話したり書いたりするときにも生かせる視点に目が向いている。</p>	
情報の分析、課題の設定、情報の収集（１）		
<p>題名「時計の時間と心の時間」に着目したり、繰り返し返されている言葉を数えたりし、数の違いをきっかけに、読みの課題を設定する。</p>	<p>○筆者の言いたいことは、題名や事例に着目すればよかったね。まず、題名に着目して考えてみよう。 ○題名には「時計の時間」と「心の時間」という二つの時間が出てくるね。 ○本文には「時計の時間」が9回、「心の時間」が17回出てくるよ。 ○ということは、筆者は「心の時間」について読者に伝えたいんじゃないかな。 ○じゃあどうして、題名が「心の時間」じゃないの。 ○ただの「時間」が3回出てくるのも気になる。</p>	<p>■「笑うから楽しい」で学んだ読み方を活用して、筆者の言いたいことを学習材から読み取る読み方を習得させることを目指す。</p>
<p>筆者は「心の時間」の方が重要だと主張しているのかわかりかを考え、交流する。</p>	<p>○筆者は「心の時間」を特に読者に伝えたかったと思う。事例が四つあるけど、全て「心の時間」について書いてあるから。 ○賛成。それだけ事例を挙げなきゃ、読者は「心の時間」について理解できないかもしれないもんね。 ○でも筆者は、「時計の時間」も大切だって⑦段落で言ってるよ。しかも①と⑧段落に「二つの時間と共に生きている」と書いてるでしょ。だから、題名も「時計の時間」と「心の時間」の両方を使ってるんだよ。 ○そっか。でも、文中の「時計の時間」と「心の時間」には「」が付いているのに、何で題名には「」が付いていないの？</p>	<p>【理科】理科で用いられる「仮説を立てる」ということを国語でも生かし、仮説を立てながら、主張や文章構成に迫っていく。</p>
	<p>読んで気付いたことを交流する中で、自分の考えが深まったり違う視点にも目が向いたりし、課題を設定している。</p>	
<p>なぜ題名に「」が付いていないのだろう。</p>		

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
整理・分析, 情報の収集 (3)		
既習の読み方を基に見通しをもって、読み進める。	<ul style="list-style-type: none"> ○今後は事例に着目して考えてみようよ。 ○四つの事例に特徴があるから、それについて読み進めていきたい。事例が分かれば、主張がつかめるから。そうすれば題名に「」がついていることのヒントもつかめると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■課題と向き合った時に、何をどのように考えていけば解決に向かうことができるのか思考する場を設け、見通しをもって学ぶことができるように促す。
本文中に出てくる四つの事例の中で、一番自分にぴったりのものを選び、交流することを通して、段落の役割を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> ○事例1。宿題をしている時とゲームをしている時に経験した。 ○事例2。朝起きたときと昼休憩とでは着替えにかかる時間が違うという経験をした。 ○事例4。友達と大縄跳びを跳ぶタイミングやテンポが違うという経験をした。 ○事例3の経験がない気がする。 ○四つの事例は全て一文目に特性が書いてあって、⑦段落につながってるよ。 ○四つの事例は、読者が「心の時間」に目を向けることができるように、説得力のある具体を示す役割をしていると思う。 ○四つの事例は、主張を捉える手がかりの役割をしていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■自分にぴったりの事例を選び交流することを通して、段落の役割の捉えを精緻化する。 ■自分の経験と事例を重ねることを通して、読みを深める。
筆者が題になぜ「」を付けたか、叙述を根拠に考える。	四つの事例の役割を捉え、主張とのつながりをつかんでいる。	■題名をきっかけに叙述を読み返し、筆者の主張をつかむ。
	<ul style="list-style-type: none"> ○「時計の時間」と「心の時間」には「」がついているのに、題名についていないのは、「」を付けたこと、一つ一つの時間を強調して分けることになります。でも、筆者が主張しているように、「二つの時間と共に生きている」から、わざわざ「」を付けて別々のものにせず、題名にしているのだと思います。自分のペースで楽しむ「心の時間」も大切だけど、全体のことを考えると「時計の時間」が大切になります。両方の時間が大切だと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ■自分の日常生活でどのような「ちえ」の使い方をしたらよいか記述させる。そうすることで、読み取りの学びだけで終えず、自己の生き方に生かすことへとつなぐ。
	題名について考えることで、「『心の時間』を頭に入れて『時計の時間』を道具として使うという、『時間』と付き合うちえ」に着目している。	<p>【特別活動】筆者の考える「『時間』と付き合うちえ」について、特別活動（学級活動、学校行事等）や異学年と関わった際の経験等を想起させて考えさせる。</p>
筆者像をつかむことを通して、文章全体を統合的に読み深める。	<ul style="list-style-type: none"> ○筆者は時間という視点から、社会をよりよくしようと考えている人だと思う。なぜなら、みんなの「心の時間」を大切にするとともに、社会を成り立たせるために「時計の時間」も必要だという考え方をもってしているから。 	
まとめ・表現, 実行, 振り返り (1)		
筆者の主張に対する自分の意見を表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ○私は筆者の考えに100%納得。「時計の時間」を軸としながら「心の時間」に目を向けて生活することで、人間関係をよりよく築きながら生活を送ることができるから。これからは、自分で時間に対する意識を使い分けていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ■読み取ったことを教科書の中だけで終わらせず、筆者の考えに対する意見をもたせるとともに、自分の生活にどのように生かしていくのか表現させる。

【児童生徒の変容】

児童は、題名に着目して読み深めるという読み方で、筆者の主張に迫ることができた。また、多様な意見や解釈を出し合う中で、根拠を見付けたり自分の生活と置き換えたりしながら自分たちなりの答えを導き出す道筋を見いだそうとする姿が見られた。さらに、「時計の時間と心の時間」という文章に込められた筆者の考えを受け止め、自分の生活にどのように生かせばよいかという「時間と向き合うちえ」を具体化し実行しようとする児童の姿から、自己の生き方が深まったと捉えている。